

「やっぱり家が一番！」

富山ろうさい病院 医療ソーシャルワーカー

さと さおり
佐渡 沙織

患者さんの退院のお手伝いをしている時に、患者さん本人からは必ずと言っていいほどこの言葉を聞きます。この言葉の背景には患者さんそれぞれの人生が表れているように感じます。大切な家族と一緒に過ごす時間や空間、長年住み慣れた家で過ごしたい、眠り慣れている布団、大事なペットが心配・・・思いはそれぞれ違いますが自分の居場所が家にはあります。



入院生活は食事時間や消灯時間が決まっており、自由に過ごすことも少なく制約された環境にあります。医師や看護師等が常にいるため安心感はあるのですが、家で過ごしていたように自由に気楽に過ごすことはできません。そのため「やっぱり家が一番」という思いで一日でも早く家に帰れるように治療やリハビリを頑張る励みにもつながります。



近年、高齢者一人暮らしや老々介護、特に富山県内は就業率が高いことから若い家族と同居していても昼間は家に高齢者が一人という環境も多くあります。今までは何とか生活できていても、入院をきっかけに家で過ごすことに不安を感じる患者さん・家族は多くいます。元気になって退院していくことが一番の目標ですが、病気の治療を続けて行くことが必須になったり、骨折や脳梗塞で体に不都合が生じることもあります。そのような状況でも住み慣れた家や大切な家族の近くで一緒に過ごしたいという思いは変わらずあると思います。

患者さんの思いに寄り添い、家で安心して過ごすことができるよう平成30年4月に医療保険・介護保険

の診療報酬が改訂となりました。国が「家で過ごすこと」を推奨するような改訂内容となっており、住み慣れた我が家で生活することの大切さを支える体制づくりとなっています。病院の関係者やケアマネジャーをはじめとする在宅サービスの関係者が密な連携を図り、住み慣れた家で安心して生活できるよう支援を行っていくこととなります。

大事な自分の居場所に戻ることができるよう入院～治療～退院～家での生活を地域一丸となって支援し、「やっぱり家が一番！」とと思っていただけたらと思います。



耳鼻咽喉科紹介

金沢大学耳鼻咽喉科の遠藤と申します。耳鼻咽喉科として、主に頭頸部を専門としています。富山ろうさい病院では毎週金曜日の外来を担当しています。

最近では芸能人のつんく♂さんや坂本龍一さんがのどの癌になり、頭頸部の癌が注目をあつめるようになりました。のどの癌は、嗄声（声がれ）や嚥下困難（飲み込みづらさ）などの症状がありますが、初期の段階では症状に気づきづらいことがあります。症状が持続する場合やひどい場合には我慢せずに専門機関への受診をおすすめします。

私の趣味はマラソンで、心身ともにリフレッシュすることができます。昨年は黒部名水マラソンにも参加し、景色や食事を堪能しました。

一步一步丁寧な診療を心がけていきますので、どうぞ宜しくお願いします。

